

ぼうさい

11月号
第3日曜日は、
「家庭防災の日」



地震が起きると、大きなゆれでガラスがわれたり、
転んだりして、けがをすることがあります。



けがで出血したり、骨折したりしたら…

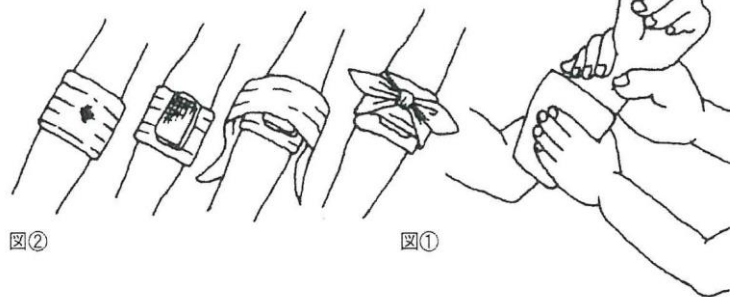
災害が起きた時 病院へ、すぐに行けないかもしれません。



そんな時は 三角巾や身近なものを使って手当をしましょう！



けがで出血したら



きずぐちに、きれいなぬのをかさねて

上からおさえましょう(図①) 手や足の場合は、心臓よりも高い位置にもっていく

と、はやく血がとまります。数分間おさえていると、血はとまります。心配して何度も

見ることはやめましょう。

それでもまだ血がにじむ場合は、その上からさらにあて布をして、しっかりと包帯や

布でしばりましょう(図②)

顔や頭、ひざなどの曲げ伸ばしをする場所には、ストッキングを

切ったものなどもべんりです。





こっせつ 骨折したら

こっせつ 骨折しているところが、動ないようにそえ木をあてましょう。

そえ木には、身近なものが利用できます。ボール紙、新聞紙、座布団、野球のバットなどが使えます。

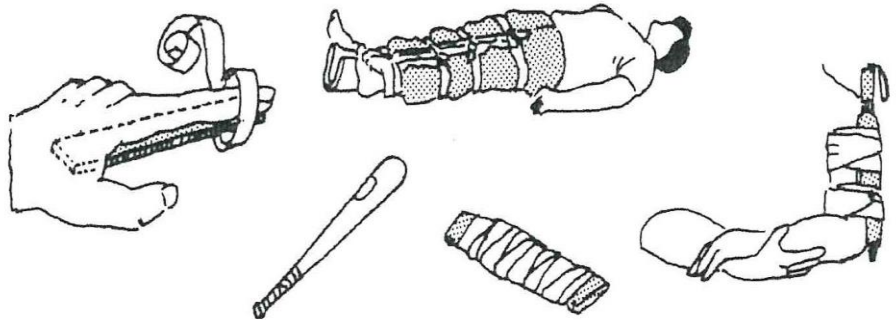


そえ木をあてて、タオルや三角巾、ネクタイなどでしっかりとくくりましょう。

こっせつ 骨折しているところの

じょうげ かんせつ 上下の関節もふくめて

そえ木をあてましょう。



そえ木と体の間に、もしすき間があるときは、固定が弱くなるので、

やわらかい布をはさんですき間がないようにしましょう。

さんかくきん いえ ぼあい 三角巾が家にない場合は、ふろしきやシーツ、スカーフなども

かわりに使うことができます。



『自分の



は、自分でまもる』